

18 本科卒業生の離職について —他業種選択者の現状及び卒後1年未満での離職者と実技成績との関係—

相馬泰栄, 中澤孝敏

明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 離職, 実習成績, キャリア養成支援

はじめに

平成24年10月31日に厚生労働省は入社後、3年以内に仕事を辞めた人の業種別割合の調査結果を初めて公表した。その中で医療・福祉関係は38.6%で4番目に高い離職率であった。歯科技工から他業種への離職率も非常に高く、卒後1年未満で30%、3年で50%、5年で75%が離職するとの報告が有る。

そこで今回、歯科技工士学科を平成19年・20年・21年の3月に卒業した学生の離職率について実態調査を行った結果と卒業時に歯科技工以外の職種を選択した学生および卒後1年未満で歯科技工から他業種に離職した卒業生の実技成績との関係について調べた結果を報告する。

対象および方法

対象：本科を平成19年・20年・21年の3月に卒業した学生170名を対象、卒後1年での調査を行った。

調査方法：平成19年の卒業生には郵送によるアンケート形式で実施し、84.6%から回答を得た。平成20・21年の卒業生には電話による質問形式で実施し、平成20年の卒業生からは72.3%、平成21年卒業生からは88%の回答を得た。

検討内容：卒業時に歯科技工以外の職業を選択した学生及び卒後1年未満で歯科技工から他業種に離職した卒業生の離職理由と実技成績について比較検討した。成績は2年次の9月末に実施するクラス分け実技試験の結果を基に上位からA・B・Cの成績で比較した。

結果

本学科の卒業生170名の内、86.5%の学生が歯科技工士として就職したが、13.5%の学生は歯科技工以外の職業を選択した。1年未満での離職率は16.9%で、

全国平均を下回った。また、男女による離職率に差は見られなかった。離職理由は技術不足が48%・歯科技工が向いていなかったが20%・労働条件の違いや長時間労働の為に20%・その他12%であった。(図1)離職理由の中で、本人の技術力に関係するものが68%を占めた事から学生の実技成績と離職との関係を比較すると実技成績下位の学生ほど卒業時に他業種を選択する傾向が高く、また、離職率も高い。(図2)

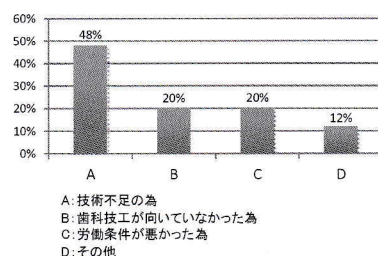


図1 離職理由

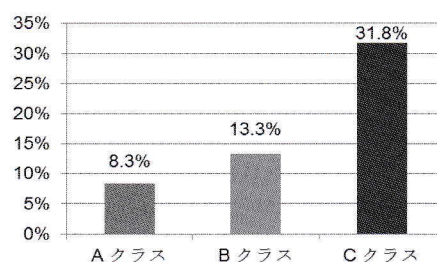


図2 実技成績クラスと離職率の関係

まとめ

結果から技術力の低い学生ほど卒業時に歯科技工以外の業種を選択する傾向がある。また、1年未満での離職率も高いことから、学生の技術力を向上させる必要がある。その為には現在実施されている学生の技術レベルに応じた実技指導を早い段階から実施する事やキャリア養成支援を通して、学生の職業意識を高め、学生のモチベーションを持続させるための指導や支援が必要ではないかと思われる。今回の調査結果を今後の進路指導に活用していきたい。